

各地で松蔭旋風巻き起こる

松蔭タイムズ

米子松蔭高等学校
生徒会

試合でできる喜び爆発 2年ぶりに県総体開催

6/1開幕

今月1日に鳥取県高等学校総合体育大会が開幕した。昨年度は新型コロナウイルス感染症の流行により中止となっていたが、今年度は各競技の日程を分散する、全日程を無観客にするなどの感染防止対策を徹底することで実施されることとなった。松蔭生はさまざまな方の協力により大会が実施されることに感謝の念を抱きつつ、日頃の部活動の成果を県内各会場で存分に発揮した。

1500対5000競歩優勝

陸上

今月1日から始まった県総体において一番最初に朗

報を本校に伝えたのは陸上競技部。大会初日に行われた男子個人では、多くの部員が力走を見せ、好成績を



4大会連続11度目の優勝を飾った剣道部男子。多くの人々に支えられての偉業達成だ。

(2年)、6位に佐々木昇さん(2年)がそれぞれ入賞した。さらに3000対5000対は田辺豊さん(3年)が5位に入賞した。

大会2日目に行われた男子5000対では、県内高校トップの持ちタイムを持つ清水郁杜さん(3年)が最終盤までトップを守るも、最後の最後に逆転を許し、2位となった。また勝部愛大さん(3年)が5位、国谷爽さん(3年)が6位にそれぞれ入賞し、県総体に臨む米子松蔭運動部のトップバッターとして見事な入賞ラッシュを記録した。

また、陸上競技は県総体で優勝2人、インターハイ出場ではなく、県総体上位6位(競歩は4位)までが中国大会に進出、その舞台で6位までに入賞しなければインターハイ出場はできない。監督の高見先生は「一勝つて兜の緒を締める。優勝したことは嬉しいが油断せずに山口で行われる中国大会に臨みたい。また優勝できなかった部員も悔しさをばねに中国大会で巻き返してほしい」と力強く話した。

ソフトボール 男子成長の初安打初打点

男子ソフトボール部は倉吉東、鳥取中央との総当たりに臨んだ。試合では途中リードするなどの見せ場も見られるも、思うような結果は残すことができなかった。だが監督の高橋先生は「今大会の一番の成果は、入部してからの3年間、一度もヒットが打てていなかった部員がこの大会でついにヒットを打ち、打点を果たしたことだ。3年間の努力の成果が見られてとても嬉しい。努力することの重要性を心から理解できたのではないかと部員の成長に目を細めていた。

本塁打、本多恵理さん(3年)、瀬田鈴華さん(2年)が三塁打をそれぞれ放つなど打線が爆発。また投手陣も米子東打線を完封し、圧巻の15-0の3回コールド勝ち。続いての準決勝では倉吉東と対戦。初戦の流れのまま、二塁打を井上さん、本多さんが放つなど打線は好調をキープ。2回以外毎回得点し、追いつける倉吉東を突き放し、13-7で勝利を飾り、決勝戦へと駒を進めた。

決勝戦の相手、鳥取城北はこれまで県総体で8度優勝しているという強豪。試合は1回表、城北に2点を先取られるも、意地の投球とそれを支える守備陣がそれ以上の得点を許さずシャットアウト。緊張感のある好試合を繰り上げ、最終回は松蔭はノーアウト1、2塁のチャンスを作るも、好機を広げることができず0-4で惜しくも敗戦を喫した。「3年が力を発揮した大会だった、新チームで雪辱を晴らしたい」と中林先生は次を見据えてチーム作りに取り組む意志を示した。

野球部、15年ぶり春季中国大会出場

県大会21年ぶり7度目の優勝、上位大会で夏に繋がる課題見つける

野球部監督に塩塚先生が就任し、新体制になってから約1年が経った。先月開催された春季鳥取県高校野球大会において米子松蔭野球部は破竹の勢いで勝ち進み、決勝戦では米子東を15-4で破り、21年ぶり7度目の優勝を飾ったことは記憶に新しい。

春季大会に優勝した米子松蔭野球部は鳥取1位として今月5日からの中国地区

高校野球大会に15年ぶりに出場した。初戦の対戦相手は山口県1位の下関国際。夏の甲子園大会には平成29、30年に連続出場し、ベスト8にも進出。春の選抜大会でも全国出場している強豪校だ。試合は下関国際打線に捕まり4回まで毎回得点を許す苦しい展開。5回からは得点を許さなかったが結果は0-7で敗戦。監督の塩塚先生、部長の杉森先

生とともに「上位大会で力を出すことの難しさを痛感している。改善し、次の大会に臨みたい」と厳しい表情でコメントした。

中国大会から1週間後の今月12日、山陰大会が開催され、米子松蔭は島根県の浜田と対戦。中国大会での敗戦をどう乗り越えるか注目されたが、この試合でも序盤に3点を許し、追いかける展開。しかし中国大会

と異なり7、8回にそれぞれ1点を返し、1点差まで迫るも、2-3で敗戦した。この展開に「終盤の粘りやチームの盛り上がりの際の雰囲気などは夏に繋がる収穫になった」と杉森先生。全国高等学校野球選手権鳥取大会(夏の甲子園)は7月10日に開幕する。中国大会、山陰大会で見つけた課題をどう克服するのか、野球部から目が離せない。

男子団体優勝、女子団体準優勝

女子個人は瀬川が優勝、男子個人は板見が準優勝

剣道

剣道部といえば3月の中国新人大会で瀬川湖雪さん(3年)が女子個人で3位入賞(優秀選手賞)、板見奏人さん(2年)が男子個人でベスト8、男子団体でもベスト8に進出するなど鳥取県内屈指の強豪として有名である。また春の全国選抜剣道大会では優勝候補だった水戸葵陵(茨城、選抜3位)、東奥義塾(青森、選抜3位)に対して一歩も引かない激戦を繰り上げたことで全国的にも非常に高い評価を得た。

今回の県総体では、初日に個人戦、2日目に団体戦が行われた。女子個人では瀬川さんが中国新人3位の力を発揮し、安定した試合運びを見せ、優勝を決めた。また男子個人では、中国新人ベスト8の板見さんが松蔭剣道部主将の原亮太さん(3年)と激突。熾烈な戦いを制し、決勝に進出した。しかし原さんとの準々決勝で消耗したこともあり、決勝では一歩及ばず準優勝に終わった。剣道個人戦は上位2名がインターハイ出場権を得るため、米子松蔭からは瀬川さんと板見さんがインターハイへの出場を決めた。また男子では原さんと福元悠之介さん(3年)がベスト8の成績を残した。個人競技のあるスポーツでは、個人戦ではお互いが「優勝」を狙いあうライバルになるが、団体戦では「優勝」を目指す。心強いチームメイトになる。

日頃鍛えた粘り見せる

バドミントン

バドミントンは今月9日、米子産業体育館で団体戦が行われ、男子バドミントン部が出場、初戦倉吉西と対戦した。

シャトルが風の影響を受けるために、普段の部活動では体育館を締め切って練習に励むバドミントン部。当然こまめに換気を行うものの、夏には体育館の室温が40℃を超えることもあるそうだ。そのような練習に励む彼らの忍耐力は試合でも活かされ、苦しい展開でもシャトルが地面に落ちる最後まで諦めずに粘り、ダブルス、シングルともに随所で見どころのあるラリーがあったものの、惜しくも1-3で敗退。新人戦での雪辱を誓い日々の練習に打ち込む。

男子川神、県内無敗神話築く

男女ともに個人団体完全制覇

ソフトテニス
ソフトテニス界において「鳥取に松蔭あり」とうたわれる米子松蔭ソフトテニス部は、今回の県総体でも他校を寄せ付けない圧倒的な強さを見せた。

男子個人では橋本哉太さん(2年)・大田優さん(2年)ペアとの松蔭対決の決勝を4-3で制した川神堅汰さん(3年)・川神航平さん(2年)ペアが優勝。これで川神堅汰さんは県総体(代替大会含む)3連覇を決めるとともに、自身が高校に入学してから出場した県新人戦、県高校インドア大会、県高校シングルス大会及びそれらの地区



13年連続15回目の団体優勝を果たした女子ソフトテニス部。き全国大会での活躍が期待される。

予選すべてで優勝をするという史上初の快挙を成し遂げた。男子個人には13ペアが出場し、インターハイに出場できる上位6ペアを独占、また中国大会には9ペアが出場権を得た。

女子個人ア上位大会出場

女子個人でも決勝は松蔭同士の同校対決。吉川理梨さん(3年)・山本乙葉さん(3年)ペアが、別所菜々さん(3年)・吉岡実紀さん(3年)を破り優勝した。また女子個人には9ペアが出場し、5ペアがインターハイ出場を決め、出場した9ペア全てが中国大会出場

勇猛果敢ベスト8

バスケット

バスケットボールは今年11日から4日間、淀江体育館等で行われ、本校からは男女バスケットボール部が出場した。大会前の取材で顧問の長木先生は「全国的な知名度、能力を持つ選手はいないかもしれないが、このチームには個の能力を上回るチームワークがある。組織力を活かして戦いたい」と意気込んでいた。

女子は初戦鳥取湖陵と対戦。怒涛の攻撃を見せ120-26という大差での勝利をもぎとった。2回戦ではこの県総体で準優勝となった鳥取東と激突し、最後まで粘り強く戦ったものの、最終的に86-33で敗北を喫した。一方、男子は初戦シードで2回戦より登場。米子高専を危なげなく85-43で撃破し、準々決勝では倉吉東と対戦。苦しい試合展開だったものの、米子松蔭は「ALLENTE(ヴァリエーション 勇敢な)」というチーム名の通り最後まで諦めることなく勇猛果敢に倉吉東の

全身全霊のプレー魅せる

バレーボール

女子バレーボール部は今年19、20日に行われた県総体に臨んだ。米子松蔭は初戦シードで2回戦、初戦を2-0で勝ち勢に乗る米子南と対戦したが、2-0で一蹴。次の準々決勝で、県内屈指の強豪米子北斗と対戦した。米子北斗と比べ選手の平均身長が15cm以上低いという不利な状況でも、相手の高さを逆に利用するなど、トリッキーな攻撃で相手を翻弄。また腕だけでなく足や肩といった全身を

使った執念のレシーブで粘り、ラリーは試合終盤までもつれにもつれた。松蔭バレー部といえば部員の強固な団結力でも有名だ。3年生は普段から可愛がっている後輩と少しでも長くバレーをしようとする戦い、下級生は日頃面倒を見てくれている先輩の為に少しでも恩返ししようという鬼気迫るプレーを見せることも、今回の県総体の結果は思うようなものではなかったが、バレー部は抜群のチームワークで日々の練習を乗り越え、春校優勝を目指す。

男子団体、準優勝

女子団体はベスト8進出

卓球

卓球は今年5、6、8日に団体戦と個人戦が行われた。団体戦では男子は準決勝、鳥取西を3-1で破り、鳥取敬愛との決勝に臨んだ。鳥取敬愛は3大会連続9度優勝の強豪。松蔭卓球部はシングルスで新開大志さん(1年)が2-3に迫るなど選手が奮戦、最善を尽くし準優勝を挙げたが今回、卓球では県2位でも中国ブロック代表決定戦で優勝すればインターハイ出場となるので、卓球部男子はまだまだ油断できない。また女子団体はベスト8に

進出した。個人男子ダブルスでは、橋寄秀吾さん(3年)・坪倉悠月さん(1年)ペア、小澤亮太さん(2年)・来家大さん(3年)ペアの2ペアがベスト8に進出、スト16にも4ペアが進出した。また女子ダブルスでは2ペアが県大会に出場し勝利を飾った。個人シングルスでは、女子で木村陽菜子さん(3年)がベスト8に進出したほか、男子では来家大さん、新開大志さん、種子理久さん(2年)がそれぞれベスト16に進出したほか、7名がベスト32となった。

今回の県総体は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大を防ぐために、全競技で無観客で実施された。声援により勇気づけられる場面も多かったため、無観客での大会開催に戸惑いを覚えた部員は多いだろうし、我が子の勇姿を見ることができない保護者の方々、特に3年生の保護者の方々は大会が開催できたことに對して喜びの気持ちを持たれる一方、我が子の高校生活の大

無観客に戸惑いの声も 松蔭公式HPで情報発信

大きな舞台が見られないことへの不満もあり、複雑な心境だろうと思われる。米子松蔭高等学校では、極力リアルタイムで県総体の模様や結果を伝えるべく、公式ホームページの更新頻度を高めた。試合風景などがアップされているはずなので、ぜひ確認していただきたい。

【アクセス方法】ワイインターネットで「米子松蔭」を検索▽学校生活「部活動」

「常勝」米子松蔭圧巻の演技

男子個人2種目1位、新星現れる

体操

米子松蔭のお家芸として知られる県強化指定校となっている体操。インターハイ出場が当たり前というプレッシャーを乗り越えて今年も圧巻の演技を魅せた。男子個人では酒井怜依さん(1年)が個人総合2位、種目別ではゆか・平行棒で1位、あん馬・吊り輪・跳馬・鉄棒で2位という圧巻の演技で1年ながら堂々のインターハイ出場を決めた。また女子は団体総合2位。個人総合では三宮葵咲さん(3年)が3位、片岡優衣さん(3年)が4位、安岡芽生さん(3年)が6位と3名が入賞した。種目別では片岡さんが跳馬2位、三宮さんが平均台1位、段違い平行棒・ゆか3位。安岡さんは平均台3位。その結果、女子は片岡さんと三宮さんがインターハイ出場となった。顧問の北村先生は「今年

果敢なファイトで全国へ

ボクシング

仁木厚希さん(2年)がボクシング男子ピン級に出場、インターハイ出場を決めた。仁木さんが軽快なフットワークで相手を翻弄するとともに、鋭いパンチを繰り出すとRSCが出され、試合は決着。見事全国大会出場を決めた。

【記者募集のお知らせ】

松蔭タイムズで記事を書いてみたいという方、私たちと一緒に新聞を作ってみませんか。経験、生徒・教員は問いません。明るく元気な現場です。関心がある方は生徒会青山先生まで。